

第9回ホスピタル・プレイ・スペシャリスト
国際シンポジウム&ワークショップ 実績報告

病院を越えてつながり続けるホスピタル・プレイを目指して
- 「遊び」をみんなの共通言語にしよう！ -

1. 全体概要

(1) 開催日時

平成29年1月21日(土) 10時~17時00分

(2) 開催場所

静岡県立大学短期大学部 講堂及び教室

(3) 開催概要

本学における HPS 養成事業を振り返り、現在の到達点を確認するための場として国際シンポジウム&ワークショップを開催され、全国各地より 125 名の参加があった。国際シンポジウムは、重症心身障害児・者施設つばさ静岡小児科医による基調講演に始まり、オーストラリアの作業療法士による講演、また、障害を持つ子どもの親と本シンポジウム主催者によるトーク形式の講演を行い、日本におけるホスピタル・プレイについて、振り返るとともに今後の遊び支援のあり方について再考するきっかけとなった。

また、午後から行われた HPS による参加型ワークショップでは、日本と海外におけるホスピタル・プレイ活動を紹介するとともに、子どもにやさしい医療を実現するための活動を体験的に学ぶ機会となった。

2. 当日プログラムの概要

(1) 10:00~10:05 開会挨拶

鬼頭 宏(静岡県立大学短期大学部学長)

本シンポジウムの開催に際し、講演者・参加者ならびにご支援とご協力をいただいている皆様に謝辞を述べるとともに本学での HPS 養成教育事業の経過および本シンポジウムのプログラムの紹介について話があり、開会挨拶とした。

(2) 10:05~10:15 主催者挨拶

松平千佳(静岡県立大学短期大学部 准教授・HPS 養成事業責任者)

本事業に対してご支援とご協力をいただいている各位に対する謝辞があった。またホスピタル・プレイと専門職の歩みについて、本学および NPO 法人ホスピタル・プレイ協会としての活動報告と今後の展望について述べた。

(3) 10:15~11:10 基調講演

浅野一恵 (社会福祉法人 小羊学園重症心身障害児・者施設
つばさ静岡 小児科医)

本講演では、「いのち」は医療だけでは救えないこと、「僕は今楽しいよ、こんなにドキドキしている。明日もまた挑戦したいな」という生きる意欲の連続が、明日に「いのち」をつないでいることを、自らの経験を通して述べた。

(4) 11:10~11:25 講演 1

Bridget Dooley (プレイセラピスト, オーストラリア Deakin University
プレイセラピー学スーパーバイザー, 作業療法士)

本講演では、Learn to Play プログラムを開発した Karen Stagnitti 氏に師事し、作業療法士として病児と関わっているブリジット氏が、発達に障害を持つ子どもたちを支えるために必要なつながりについて述べた。

(5) 11:25-11:55 講演 2

猪井真代 (社会福祉法人 小羊学園重症心身障害児・者施設
つばさ静岡 たんぼぼ 太陽くん母)

本講演は、社会福祉法人小羊学園 重症心身障害児・者施設 つばさ静岡の児童発達支援事業と放課後等デイサービスを合わせた通園施設 たんぼぼに通い、ホスピタル・プレイ協会がタケダウェルビーイングプログラムで実施している HPS による在宅支援を受けている猪井さんと、松平准教授によるトーク形式で行われた。

(6) 11:55~12:05 ワークショップ案内

(7) 12:05~13:00 昼休み

(8) 13:00~16:35 HPS によるワークショップ ホスピタル・プレイを学ぶ (5 ブース)

本学 HPS 養成講座は、現在まで 12 クールが実施されている。HPS によるホスピタル・プレイ活動を紹介しつつ、ワークショップを通じて、参加者は子どもにやさしい医療を実現するための活動を体験的に学んだ。

- ブース A (会場: 講堂) 医療的ケア児を在宅で支えるホスピタル・プレイ - ガイドイメージ法から在宅で行うプレパレーションまで - タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2015 助成事業 (在宅担当 HPS)
ホスピタル・プレイによる在宅支援システムの構築に取り組んでいる HPS の様子の特

別展示で紹介するとともに、実際にスイッチ作りやペットボトルを使ったおもちゃ作りを体験した。

- ブース B (会場:101 講義室) きょうだい支援のためのホスピタル・プレイ - きょうだいの会から始まる個別支援へ - (HPS 静岡・浜松ブロック)
2009 年より静岡県立こども病院でスタートした「きょうだいの会」でのこれまでの活動内容や会を通して顔見知りとなった子どもに改めて個別支援をした事例を紹介した。また、画用紙と楊枝でコマを作り、子どもたちの心をほぐす遊びを体験的に学んだ。
- ブース C (会場:102 講義室) 食事制限のある子どもへのホスピタル・プレイ (HPS 関東ブロック)
検査や周術期の一時的なものや免疫低下、アレルギーなどの疾患によって食事制限が必要な子どもに対して、今まで HPS が経験してきた事例を紹介するとともに、粘土を使ったお菓子作りや食べ物の写真を使ったコラージュ制作を実際に体験し、食べられないことをどうやってコーピングしていくかを学んだ。
- ブース D (会場:104 講義室) ホスピタル・プレイ・スペシャリストとしての挑戦 - 変化を起こすための第一歩 - (HPS 養成週末講座 1 クール修了生)
養成週末講座 1 クール生が、それぞれに抱えていた受講前の思いや現状を振り返った上で、受講中、受講後に職場でどのような取り組みをし、どのような成果や課題がみられたのかをポスターとして展示し、報告した。参加者が、養成週末講座や HPS の活動内容を知るきっかけとなった。
- ブース E (会場:105 講義室) ホスピタル・プレイでつなぐ - 病室から外の世界へ - (HPS 関西ブロック)
子どもが生きるために必要な 4 つの力 (Connect,Courage,Count,Capable) のうち、Connect (繋がり) に着目し、繋がる力を強めるための遊びを 2 つ紹介した。実際にポケットフレンド作りとメガネ (仮面) 作りを体験し、他者や外の世界と繋がるきっかけとなる遊びを学んだ。

(9) 16:35~16:45 休憩・移動

(10) 16:45~17:00 まとめ・閉会挨拶

有泉祐吾 (静岡県立大学短期大学部部長)

有泉短大部部長より本学における今後の養成教育事業について述べられ、閉会の挨拶とした。

3. 当日の様子

開会挨拶



主催者挨拶



基調講演



HPS ワークショップ



主催：静岡県立大学短期大学部

NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会

後援：静岡県

静岡市

静岡県重症心身障害児（者）を見守る会

